

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>『光の道』構想は日本を中長期的な成長軌道に乗せる政策であると高く評価しております。しかしながらその進捗は捗捗しくなく、特に「グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース」(以下、「タスクフォース」と称します)での入口議論に時間がかかっているのは問題があると思います。ここでは提示されている「1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。」、</p> <p>「2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。」に共通の意見としてタスクフォース等の委員選定の在り方について意見を述べさせていただきます。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>今回、このように革新的かつ重要な構想が大臣から明確に示されているにも関わらず検討の進行が遅い理由として、委員の中に大臣構想に異を唱える人が散見され、まとめに時間がかかっている印象が拭えません。その根本的原因としては、今回のタスクフォース委員は大臣からミッションが明示される前に選定されていることが挙げられます。従前のいわゆる「審議会」であれば多様な意見は必要であり、むしろ歓迎されるべきものであると思われませんが、「タスクフォース」という形であればミッション達成のために意を一つにすべきものと思われれます。</p> <p>したがって、少し遠回りかもしれませんが、今回のタスクフォースの各委員に「光の道」構想の主たる方向性に対して賛同かどうかを再確認し、結果によっては委員を再選別することが本構想の推進のために必要であると考えます。</p> <p>また、今回のタスクフォースに関して審議過程等のできる限りのオープン化が図られている点についてはまだ不十分な点もあるものの一定の評価ができますが、そのスタート点である委員の選定については全く不透明であると思われれますので、委員の選定について単に「学識経験のある者」といったことだけでなく、選定の過程、基準、判断理由を明確にすべきであると考えます。</p> <p>例えば一部の部会では特定の利害関係会社の社員が委員として加わっておられますが、こういった極端な例は別としても例えば部会ごとに利害関係者の参加を是とするのか否とするのかを</p>

明確にし、もし「否」とするのであれば関係者の排除を徹底し、「会社(または大学等団体)としての利害関係はあるが意見等は個人としての識見」といったあいまいな形でなく、明確に「特定企業と取引関係(大学への研究費等を含む)がない」ことを誓約させることが必要であると考えます。

さらに、委員としてジャーナリズムを本業とされる方も何名か散見されますが、ジャーナリストの委員起用については疑問なしとしません。ジャーナリストの方を全て排除するべきであるとは考えませんが、このような構想に沿って何かを作り上げるといふこととジャーナリズムはそもそも目的が異なるので、もし何らかの理由で入れるのであれば少くとも「本件についてはジャーナリスト活動に利用しない」といった制約を課すことが必要であると考えます。

以上、よろしくお取り計らいいただき、早期に『光の道』を実現できることを願っております。